

【 花の期 弥生 】

京都市立下京中学校
校長 安居 昌行

「人生の花を咲かせるために」

いよいよ一年間のまとめの月に入りました。皆さんにとってどのような一年でしたか。

標準服に手を通してドキドキわくわくしていた一年生は、もう立派な中学生になりました。二年生は、生き方探究チャレンジ体験などを通して、社会への一歩を踏み出しました。三年生は、義務教育最後のまとめの一年、間もなく新たな社会への入口が待っています。

さて、下京中学校では、様々な活動を行ってきました。その一つに「探究する」学習があります。一年生ではグループで、二年生では個人研究、そして三年生では、まとめの論文へと、それぞれ課題意識をもち、調査し、自分の考えをまとめ発表するなど、大変熱心に取り組むことができました。この「探究する」力は、下京中学校の校是「志きらめく 志は高く、学びは深く、出会いは広く」につながるものですし、これからの社会を生き抜いていくために大切な力となるものの一つだと思います。

「大事なのは、何が正しいかということではなく、何がしたいかという情熱の方ではないかと思うようになった。・・・(中略)・・・本当のこと、大切なこと、知りたかったこと、そのためには全力を尽くしても悔いがないこと。そういった“感情のエコロジー”こそが、探究する心を支える。・・・情熱は、結局は生きるということに由来する。生きるとは、行きかうことである。出会うことである。幅広く眺めることである。」(『思考の補助線』茂木健一郎)

ところで、春を迎える準備していた“花”も少しずつ咲き始めました。中学生の皆さんはいわゆる“思春期”と呼ばれる時期の真っ只中にいます。悩みや不安を抱えながらも、これからの人生の大きな花を咲かせる準備をしているところでもあります。「人がその生涯にいだく思想の源泉は、すべて思春期にあるとしばしばいわれる」(同書)ように、皆さんは今、人生にとってとても重要な時期にいます。一年のまとめをするとともに、これからも様々なことに挑戦し、自分を磨く努力をこれからも続けてほしいと思います。ひとりひとりが自分の花を咲かせるために。



〈城南宮の梅の花〉